# 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表　令和４年度

| 法人名 | 有限会社<br>相模テクノ | 代表者 | 堀沢　暁子 |
|---|---|---|---|
| 事業所名 | グループホーム<br>あかつき | 管理者 | 神田美貴子 |

| 法人・事業所の特徴 | ・高齢者の方々に対し感謝し、尊敬と敬意を持って介護させて頂く事を理念とし、利用者に寄り添い利用者本位の支援をしている。法人は小規模ながら、居宅介護支援、訪問介護・看護から通所介護、ＧＨ、小規模多機能、サ高住等多機能なサービスがあり、利用者の状態・ニーズに対応したサービスを提供でき最後（看取り）まで対応している |
|---|---|

| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援ｾﾝﾀｰ | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ０人 | ０人 | ４人 | ２人 | ０人 | １人(書面) | ０人 | ４人 | 人 | 11 人 |

| 項　　目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
|---|---|---|---|---|
| Ａ．事業所自己評価の確認 | ・成年後見制度や地域ケア会議への理解を深め、地域の方々から必要とされる事業所作りに貢献したい。コロナ禍で地域との交流を図る事がむずかしいいので、この間にリモート研修等で介護や地域への理解を深めスキルアップに努める。 | ・スタッフ全員で事業所評価に取り組んだ。<br>・どのテーマも「余り出来ていない」や「ほとんどできていない」という意見が半数近くあった。なぜ出来ないのか振り返り、今後にいかしてほしい。 | ・コロナ禍で交流制限があり、家族や地域との交流ができなかった事は仕方がないと思う。どのテーマでも、この点が達成を不可能にしていたと思う。 | ・成年後見制度や地域ケア会議への理解を深め、地域の方々から必要とされる事業所作りに貢献したい。<br>・ＷＩＴＨコロナ禍で、状況をみながら段階的に地域との交流を図っていく。<br>　具体的には、まず庭を一般開放し地域の方々の散歩等にご利用頂く。次にサニーヒルのサテライトルームをご家族と利用者との交流に使用する。 |
| Ｂ．事業所の　しつらえ・環境 | ・新型コロナの問題が解決したら、改めてサニーヒルに地域交流の場を構築してゆく。<br>・コロナ禍の前までは月に１回オレンジカフェを開催していたが、あかつき利用者の参加がほとんどだった。地域の方々が参加しやすいオレンジカフェの開催をしてゆきたい。 | ・コロナ禍で面会や来客も中止し、苦しい選択が続いたと思うが、玄関のカギもかけずに利用者の皆さんは自由に行動できていたと思う。 | ・事業所内居心地が良いのか、退屈している人がいるように思える。<br>・新たに委員になったので、事業所の環境が分からない。 | ・ＷＩＴＨコロナでの活動になり、感染防止に努めながら出来るだけ家族や地域の方々が交流できる場を作る。具体的には<br>1．直接面会できるように面会室や玄関、外の焚き火の広場等やサニーヒルを利用する<br>2．長期宿泊者の逆デイ（昼間家族と過ごし、夜間は事業所に泊まる）。希望者のみ<br>3．焚き火の広場で地域の方との交流を図る。敷地内に設置した自販機も地域の方々に自由にご利用頂く。 |
| Ｃ．事業所と地域のかかわり | ・コロナ問題解決後は認知症の専門施設としての経験を活かし、認知症の相談等を気軽にできる地域の相談窓口として活動する。<br>・コロナ問題解決後は駄菓子カフェを活かし、地域の子供達にも地域の駄菓子屋さんとして利用者と子供達との交流を深めてゆきたい | ・コロナ禍で地域との交流はできなかった。<br>・コロナ禍で地域の行事やイベントも無かった。 | ・地域の自主防災組織の一部になっており、地域には知られている。<br>・介護で困った時の相談場所になっている。 | ・ＷＩＴＨコロナで状況をみながら段階的に地域との行事やイベントに参加する。<br>①地域防災活動に協力し、11 月の避難訓練は地域合同で行う。<br>②地域のゴミゼロ活動等には参加する。<br>③地域の祭りが再開した時には、状況をみて太鼓演奏等参加協力する。<br>④サニーヒルｄｅカフェの再開を検討する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | コロナ禍で改善計画を実行できなかったので、次のとおり前回の改善計画を引き継ぐ。<br>・民生委員の方々と連携を密にして、地域の困り毎等の相談に対応してゆく。<br>・通所利用の方の地域の自治会やイベント等が分からないので、家族を通じ利用者の方が地域のイベントに参加できるよう支援してゆく。 | ・コロナ禍で地域の行事やイベントもなく、参加も不可能だった。<br>・事業所は鍵もかけず、自由に敷地内を散歩できる環境がある。<br>・コロナ禍で改善計画は取り組めなかったと思う。<br>・ご近所とのかかわりはできている | ・多機能なサービスがあるので、地域のいろいろなニーズに添って対応できるのは良い。と言う意見を頂きました。今後一層の努力と協力が必要と感じました | コロナ禍で改善計画を実行できなかったので、次のとおり前回の改善計画を引き継ぐ。<br>・民生委員の方々と連携を密にして、地域の困り毎等の相談に対応してゆく。<br>・通所利用の方の地域の自治会やイベント等が分からないので、家族を通じ利用者の方が地域のイベントに参加できるよう支援してゆく。 |
| E．運営推進会議を活かした取組み | 前回の改善計画が実行できなかったので、次の通り改善計画を引き継ぐ。<br>・運営推進会議を生かした地域への貢献について、職員全員が取り組めるような体制を作る。 | ・コロナ禍で地域貢献の取り組みができていなかった。・コロナ禍で運営推進会議もほとんど書面会議となり、地域貢献への取り組みもできていない。<br>・地域の方の事例検討はコロナ禍でもあり、個人情報保護の観点から取り組めなかった。<br>・地域での取組みを一緒に取り組もうとしている事は分かった。<br>・書面会議でもアンケートを実施し、改善につなげていた。 | ・地域との交流する活動のアドバイスや情報発信の場として、活かしてゆく。 | ・コロナの状況をみながら、地域の一部となり運営推進会議を活かし活動につなげてゆきたい。具体的には<br>1．コロナ禍の状況をみながら、オレンジカフェを再開し、地域の交流を深める。<br>2．サニーヒルで利用者と一緒に駄菓子屋を開き、地域の子供達と交流する。<br>3．地域の保健室を再開し、地域の健康管理に活かしたい。 |
| F．事業所の防災・災害対策 | ・コロナ禍が終息したら、前回の改善計画を引き継ぐ<br>地域の方々にも参加して避難訓練や防災訓練を実施する。 | ・コロナ禍が終息していなかった為に、改善計画は実施できなかった。<br>・地域の自主防災組織にも位置づけられており、防災計画は概ね知っている。<br>・コロナ禍以前に防災訓練に参加したことがある。<br>・地域の自主防災組織に位置づけられており、災害時は地域の避難場所にもなっている。 | ・ソーラ発電により、災害時にも電気が使用できるようになっており、地域の避難場所として、地域に貢献できる体制ができている。<br>・避難訓練では、炊き出し訓練等を行い、災害時の対策を訓練している。 | ・ＷＩＴＨコロナで状況をみながら、前回の改善計画を引き継ぐ<br>1．地域の方々にも参加して避難訓練や防災訓練を実施する。<br>2．11 月の避難訓練は地域と合同で実施する。自主防災組織に位置づけられている事業所としての役割を果たせるよう訓練する。 |